

志賀直哉



上林暁 写真提供：文藝春秋

私小説の魅力



Akatsuki
Kanbayashi

[生誕120年記念]

上林 暁 展

令和4年 12/1 ㈭～令和5年 1/26 ㈭

(2022) (2023)

※12月27日～1月1日(休館)

■開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■会場／高知県立文学館 2階企画展示室

■観覧料／400円(常設展含む) ●高校生以下無料 20名以上の団体は2割引

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者(1名)、高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。(窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります)

主 催/高知県立文学館(公益財團法人 高知県文化財團)

協 力/上林暁文学館(大方あかつき館)、大熊伊禪子「上林暁 長女」氏

後援

オーテピア高知図書館(高知県立図書館、高知市民図書館)、高知大学、高知県立大学、高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知県高等学校文化連盟、高知新聞社、朝日新聞高知経局、毎日新聞高知支局、読売新聞高知支局、NHK高知放送局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、KCB高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送、四国旅客鉄道株式会社、高知県・高知市商店街振興組合連会、公益財團法人高知県觀光コンベンション協会、公益社団法人高知市觀光協会、とさでん交通株式会社、土佐くろしお鉄道株式会社、公益財團法人高知勤労者福祉サービスセンター

高知県立文学館

〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1-1-20 FAX088-871-7857

TEL088-822-0231 <https://www.kochi-bungaku.com/> e-mail:bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp



●高知龍馬空港よりJR高知駅下車、徒歩15分 ●JR高知駅下車、徒歩20分 ●とさでん交通「高知城前」下車、北へ徒歩5分 ●バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分
※駐車場はありませんので、お車でお越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用ください。



上林暁生誕120年を記念しての展覧会。

本展では、高知出身の私小説作家上林暁の人と文学を中心に紹介します。

また、作中「一人称」を用いながらも私小説に対して、上林とは違った見解を持つ大江健三郎の文学にも目を向け、その魅力を検証します。

さらには、森鷗外、志賀直哉、川端康成、太宰治、田中英光、安岡章太郎といった著名な作家の作品や今年2月に亡くなった私小説作家西村賢太の作品を通して、私小説の変遷とその魅力を紹介します。

〔上林暁プロフィール〕

上林暁は、本名徳廣巖。筆名は、熊本五高時代に下宿していた熊本市上林町に由来しつけられた。上林は「改造」の記者を経て執筆活動に専念。昭和7(1932)年には、「薔薇盜人」が川端康成に認められ、翌年刊行。昭和13(1938)年「安住の家」で私小説の道を開き、妻繁子の発病から死に至る日々を描いた「聖ヨハネ病院にて」ほか、病妻ものといわれる作品で文壇に地歩を築いた。昭和33(1958)年、『春の坂』刊。翌年には、芸術選奨文部大臣賞を受賞している。

昭和37(1962)年秋、2度目の脳溢血で倒れ右手、足、口が不自由になるが、翌年、妹睦子の協力で口述筆記による「白い屋形船」を発表。この作品で、昭和39(1964)年度の読売文学賞を受賞している。

昭和51(1976)年には、唯一の句集『木の葉髪』を刊行。昭和55(1980)年8月28日死去。当館は、左手で書いた「芥川龍之介の思ひ出」を所蔵している。

—関連行事—

☆記念講演会

「私小説の生き方 上林暁に寄せて」

- 日 時／令和4(2022)年12月18日(日)
午後2時～3時30分
- 講 師／富岡幸一郎 氏(文芸評論家)
- 場 所／高知県立文学館1Fホール
- 参加料／要当日観覧券
- 申 込／電話または文学館受付にて事前申し込み
(定員50名)

☆朗読の会

「生誕120年 上林暁」私小説を読む

- 日 時／令和4(2022)年12月17日(土)午後2時～午後4時
- 出 演／文学館カルチャーサポーター
- 場 所／高知県立文学館1Fホール
- 参加料／無料
- 申 込／不要(当日、直接会場までお越しください)

【展示構成】

I.私小説作家・上林暁

- ☆生いたちと文学への目ざめ
- ☆東大時代
- ☆改造社時代と挫折
- ☆作家への道(再度の上京)
- ☆戦時下における妻の発病
- ☆「病妻もの」の誕生
- ☆「聖ヨハネ病院にて」の映画化—映画「あやに愛しき」
- ☆暁、ふるさとを書く
- ☆脳溢血の再発(白い屋形船と闘病生活)と死

II.私小説の変遷を辿る

III.大江健三郎の文学

IV.私小説作家・西村賢太の文学

『雨滴は続く』
西村賢太著/文藝春秋
令和4年4月号/文藝春秋



『海邊の光景』
安岡章太郎著/講談社



上林暁草稿「青空」(複製)
/原本:日本近代文学館蔵



『晩春日記』上林暁著/
櫻井書店



上林暁草稿「鳥の宿」

☆クイズイベント クイズを通して、上林暁やその他の作家を知ろう。

- 日 時／令和4(2022)年12月11日(日)、
令和5(2023)年1月8日(日)、9日(月・祝)
午前10時～午後4時
- 参加料／要当日観覧券

☆新春ロビーコンサート

「作家が愛した音楽」

- 日 時／令和5(2023)年1月4日(水)午後2時～
- 演 奏／NPO法人こうち音の文化振興会会員
- 場 所／高知県立文学館2階ロビー
- 参加料／要当日観覧券

☆展示解説

展覧会担当者による展示解説

- 日 時／毎週土曜日 午後1時30分～(30分程度)
- 場 所／高知県立文学館2階企画展示室
- 参加料／要当日観覧券
- 申 込／不要(当日、直接会場までお越しください)